

ビーチクリーンアップ モニタリング調査 2025 「浜歩き×海ごみ調査」

日 時：令和 7 年（2025 年）11 月 9 日（日）9:00～14:30

場 所：調査場所①：坂出市瀬居島本浦漁港近くの海岸、調査場所②：坂出市沙弥島沙弥海岸

参加者数：16 名

11 月 9 日 日曜日、坂出市の瀬居島と沙弥島の 2 か所の海岸でモニタリング調査を実施し、大学生や企業で環境活動に取り組む方など、計 16 名にご参加いただきました。

今回は、International Coastal Cleanup (ICC) 手法と、水辺の散乱ごみ指標評価手法を用いて、2 地点で調査と漂着ごみの回収を行いました。調査では、海ごみリーダー養成講座の修了生がキヤプテンを務め、講座で学んだ調査時の留意点を説明した上で活動を進めました。

1 か所目：瀬居島（本浦漁港近くの海岸）

回収・調査の結果、個数が多かったごみの品目トップ 3 は、表 1 のとおりです。破片系のごみが多い傾向にあり、調査品目では カキ養殖用まめ管（32 個）、飲料用ボトルキャップ（18 個）などが特に目立ちました。

2 か所目：沙弥島（沙弥海岸）

こちらでは大学生の修了生がキヤプテンを務め、同様の手法で調査を行いました。回収されたごみの主な品目トップ 3 は、表 1 にまとめています。前週に海岸クリーンアップが実施されていたため、大きなごみは少なく、小さな破片や細かなプラスチックごみが多く残っていることが確認されました。

調査後は、海ごみ問題を正しく理解してもらうための「海ごみミニ講座」を開催し、海ごみが生物に与える影響や瀬戸内海における海ごみの現状などについて紹介しました。

参加者からは、「一見きれいでも、拾ってみると多くのごみがあった」「プラスチックごみに様々な種類があると分かった」「小さな破片は数が多く、回収が難しい」などの感想が寄せられました。

今回の調査を通して、海岸には目に見えにくい小さなごみが多く残っていることが改めて分かりました。参加者の皆さんが講座で得た気づきをきっかけに、身近な場所や日常生活の中で海ごみ削減に取り組む一歩につながること、そして今後、海ごみリーダーとして活動が広がっていくことを期待しています。

表 1 各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目） $t = 10$ 分間	回収量
調査① 瀬居島	① 発泡スチロール破片 126 個 ② プラスチックシートや袋の破片 35 個 ③ 硬質プラスチック破片 34 個	2 袋（30L ごみ袋）
調査② 沙弥島	① カキ養殖用まめ管（長さ 1.5 cm） 92 個 ② 硬質プラスチック破片 60 個 ③ 発泡スチロール破片 45 個	1 袋（30L ごみ袋）

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：瀬居島本浦漁港近くの海岸



海岸クリーンアップの様子



ICC 調査の様子



調査の結果を共有



集合写真

調査場所②：沙弥島沙弥海岸



海ごみリーダー養成講座受講生による説明



海岸クリーンアップの様子



海ごみ問題について学ぶミニ講座



集合写真